

2017年度 研究センター事業報告書

研究センター名	環太平洋文明研究センター
研究センター長名	安田喜憲

I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

■拠点全体の研究成果要約

学外研究機関及び研究者との連携強化: 第1班ではフィンランド・トゥルク大研究者との共同研究、第2班では国立民族博物館との連携、第3班では山口大学との縄文時代に関わるデータベースとの連動、第4班では、JICA との南太平洋島嶼地域の研究フィールド開拓促進を行い、学内だけでなく学外の研究機関及び研究者との連携を強化した。

若手研究員の育成: 今年度前期まで専門研究員であった3名が今年度後期より助教となり若手研究員のキャリアパスに成功した。加え、専門研究員だけではなくセンター構成メンバーの若手研究員の資料収集・フィールドワークへの財政面サポートもを行い、包括的に若手研究員の育成に尽力した。

研究の国際化の推進: 第1班福本研究員がフィンランド・トゥルク大の研究者と共同研究を開始し、年縞研究の国際化を推進した。また第2班の富田助教は2018年8月にモンゴルで開催される国際シンポジウムでパネルを組織する事前準備のため、トルコ及びモンゴルの研究者とともにモンゴルで調査を実施し、研究を多面的に展開する新たな機会を創出した。

■各グループの研究成果

第1班(環境考古学/安田喜憲グループ): 田沢湖の表層試料に関する珪藻化石の分析

戦前の温泉水の導入によって酸性化した湖水は、近年の中和処理事業によって改善したと考えられていたが、分析結果より水圏の生態系はまだまだ回復していないことが判明した。

第2班(文化人類学/小川さやかグループ): 人口変動や生業の特質の背景にある要因の特定

今日の同時代の多様な環境において多様な生業モデルを生きる諸社会における人間と環境の関係をめぐり、アメリカ・アジア各地において実施してきた調査・研究の成果をとりまとめ、『異貌の同時代—人類・学・の外へ』を刊行した。

第3班(縄文考古学/矢野健一グループ): 縄文時代の人口を推定する新たな方法の開発

1970年代に小山修三が行った遺跡数×1遺跡居住人数という人口推定に代わる新たな推計手法を開発した。これにより推定総住居軒数×1住居の居住人数で約25年幅の居住人口を推定することが可能となった。加え、これまでの研究成果の集大成の一部として縄文時代に関して日本最大規模の遺跡データベース(約3万件のレコード)構築し、3月末よりウェブサイトでの公開を開始した。

第4班(災害地理学/高橋学グループ): 複数地点の地震、火山活動における相互関連モデルの提唱

地震データベースの分析から、発生メカニズムを別個に考えられていた内陸地震、火山の噴火、プレート型地震は、プレートの動きとの関連でモデルとして示すことが可能であることが示唆された。

■今後の展望

◇**研究成果の学外発信:**これまで土曜講座などで広くセンターにおける研究成果を発信してきたが、更なる学外発信力の強化に取り組んでいく。具体的には、矢野健一教授出演の映画「縄文にハマる人々」の上映会を計画し、矢野教授以外の出演者や監督に協力を要請し、世代や専門知識を問わないところにまでその裾野を広げたい。

◇**センターの活性化:**今年度、女性研究者である河角直美准教授と小川さやか准教授がセンターの運営委員に就任し、研究者の多様化への取り組みに着手した。今後は、文化共存の観点から外国籍研究者の委員就任に取組み、センターの研究所化に向けて特色あるセンターの形成を目指したい。

◇**外部資金の獲得:**故渡辺公三教授を代表として申請した科研費SとAを最大限に活用し、2018年度もセンターとして科研費の申請に取り組む。加え、センター構成メンバーそれぞれに学外助成に申請し、ボトムアップ型でセンターの研究促進を図る。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2018年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
センター長	安田 喜憲	衣笠総合研究機構	教授	
運営委員	高橋 学	文学部	教授	
	矢野 健一	文学部	教授	
	河角直美	文学部	准教授	
	小川さやか	先端総合学術研究科	准教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	中川毅	総合科学技術研究機構	教授	
	島田伸敬	情報理工学部	教授	
	川村貞夫	理工学部	教授	
	富田敬大	立命館グローバル・イノベーション研究機構	助教	
	中村大	立命館グローバル・イノベーション研究機構	助教	
	神松幸弘	立命館グローバル・イノベーション研究機構	助教	
学内の若手研究者	① 専門研究員・研究員	福本侑	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		近藤宏	衣笠総合研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント			
	③ 大学院生	梁説	先端総合学術研究科	博士後期課程院生
		Corey Noxon	文学研究科	博士後期課程院生
	④ 学振特別研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等)	岩田京子	先端総合学術研究科	研究指導助手	
客員協力研究員	小野林太郎	東海大学海洋学部	准教授	
	嘉幡茂	ラス・アメリカス・プエブラ大学	准教授	
	那須浩郎	岡山理科大学生物地球学部	准教授	
	清水昭	福島県立医科大学	特任教授	
	尾関清子	東海学園女子短期大学	名誉教授	
	市木尚利	リマ日本人学校	常勤講師	
	藤木利之	岡山理科大学理学部基礎理学科	講師	
	東村純子	福井大学国際地域部	講師	
	森下直紀	和光大学経済経営学部	講師	
	長谷川悦夫	埼玉大学教育機構	非常勤講師	
	北川淳子	福井県里山里海湖研究所	主任研究員	
	真邊彩	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター	文化財専門員	
	篠上雄彦	日本検査キューエイ(株)	理事審査員	

	竹田武史	N/A	写真家
	村山茂樹	日刊工業新聞社	編集委員
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	外山秀一	皇學館大學	教授
	菅原大助	ふじのくに地球環境史ミュージアム	准教授
	山田和芳	ふじのくに地球環境史ミュージアム	准教授
	高山浩司	京都大学大学院理学研究科	准教授
	中村豊	徳島大学	准教授
	小野映介	新潟大学	准教授
	丸山敦	龍谷大学	准教授
	森勇一	金城学院大学	講師
	石田智恵	早稲田大学法学学術院	専任講師
	桐村喬	皇學館大学	助教
	上峯篤史	京都大学白眉センター	特定助教
	松森智彦	同志社大学人文科学研究所	嘱託研究員
	アルベルトウス ＝トーマス モ リ	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文 化研究所	ジュニア・フェロ ー
	木村啓章	大阪府教育庁	技師
	幡中光輔	出雲市文化財課	主事
	遠部慎	久万高原町教育委員会	主事
宮地聡一郎	福岡県教育委員会	主査	
栗畑光博	都城市教育委員会	主幹	
研究所・センター構成員 計 49名 (うち学内の若手研究者 計4名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2018年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共 著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・ 号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	中村豊	列島西部における縄文晩期 末大型石棒盛行の背景	単著	2017年4月	六一書房, 山本暉久先生古 稀記念論集 二十一世紀考 古学の現在		pp.297-307
2	石田智恵	個人の登録・消去・回復— アルゼンチンと同一性の問 題	単著	2017年5月	以文社, 異貌の同時代—人 類・学・の外へ	渡辺公三編著	pp.5-48
3	富田敬大	20世紀のモンゴルにおけ る人間=環境関係—牧畜の 「集団化」をめぐる歴史人 類学的研究	単著	2017年5月	以文社, 異貌の同時代—人 類・学・の外へ	渡辺公三編著	pp.141-172
4	森下直紀	千の湖に生きるひとびと— 水をめぐるオブジェたちの 半世紀	単著	2017年5月	以文社, 異貌の同時代—人 類・学・の外へ	渡辺公三編著	pp.173-208
5	近藤宏	動物論理の発見—隷従・憎	単著	2017年5月	以文社, 異貌の同時代—人	渡辺公三編著	pp.437-494

		悪に抗する思考としての構造人類学			類・学・の外へ		
6	安田喜憲	環太平洋文明から日本の未来を見据える	単著	2017年6月	花乱社, いのちのふるさと海と生きる	田中克他 11名	pp.25-41
7	中村大	本書で取り上げた土偶	単著	2017年6月	山川出版社, 土偶界へようこそ 土偶の美の宇宙		pp.184-195
8	Koji Takayama	Biogeography of pantropical plants with sea-drifted seeds	単著	2017年8月	Routledge “Multidisciplinary studies of the Environment and Civilization. IX-XII”	Mark J. Hudson	pp.89-99
9	Kazuyoshi Yamada	Lake varves and environmental history	単著	2017年8月	Routledge “Multidisciplinary studies of the Environment and Civilization. IX-XII”	Mark J. Hudson	pp.24-42
10	Yoshinori Yasuda	Preface: Introduction the series”, In: Yasuda, Y., Hudson, M. (eds),	単著	2017年8月	Routledge “Multidisciplinary studies of the Environment and Civilization. IX-XII”	Mark J. Hudson	pp.VIII-ix
11	安田喜憲	人類一万年の文明論	単著	2017年9月	東洋経済新報社		337p
12	安田喜憲	はじめに	単著	2017年9月	古今書院, 自然と人間の関係の地理学		pp.1~8
13	高橋学	環太平洋の災害と文明	単著	2017年9月	古今書院, 自然と人間の関係の地理学		pp.159-182
14	神松幸弘	水辺に生きる人間と自然の共役史	単著	2017年9月	古今書院, 自然と人間の関係の地理学		pp.60-77
15	小川さやか	タンザニア連合共和国	単著	2017年11月	丸善出版, 世界の暦文化事典		pp.705-710
16	森下直紀	カナダ水俣病事件の現在: 世界に潜在する水俣病患者救済のために	単著	2017年12月	くんぶる, いま何が問われているか: 水俣病の歴史と現在		pp.127-145
17	矢野健一	縄文からみた弥生のはじまり	単著	2017年12月	京都府埋蔵文化財研究会, 第24回京都府埋蔵文化財研究会発表資料集 弥生文化出現期前後の集落について		pp.1-6
18	矢野健一	杉沢遺跡 2017年度発掘調査概報	共著	2018年3月	立命館大学文学部学芸員課程研究報告第22冊	鈴木大輔他	16p.

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	河角直美	記憶地図から読む地域の景観の歴史—仁和寺門前地域を例に	共著	2017年4月	ランドスケープ研究, 日本造園学会, 81巻1号	板谷直子他4名	pp.22-25	有
2	神松幸弘	変態の遅延するモリアオガエル	共著	2017年5月	日本爬虫両棲類学会, 爬虫両棲類学会報, 2017年巻1	丸山敦	pp.30-36	無

		(Rhacophorus arboreus) 幼生の観察および炭素・窒素安定同位体分析による生態的地位の推定			号			
3	幡中光輔	中四国地方における石囲炉の受容と展開—石囲炉の伝播から地域間交流を考える	単著	2017年5月	縄文時代, 縄文時代文化研究会, 第28号		pp.27-53	有
4	中村豊	徳島平野における縄文/弥生移行期の遺跡立地の特徴	単著	2017年5月	考古フォーラム蔵本, 青藍(せいらん), 第12号		pp.5-15	無
5	小川さやか	タンザニアにおける路上商人の組合化とインフォーマル性の政治—抗争空間論再考(特集グローバルゼーションと公共空間の変容)	単著	2017年6月	文化人類学, 82巻2号		pp.182-201	有
6	外山秀一	野洲川下流域平野の地形環境と遺跡の立地環境	単著	2017年6月	滋賀県守山市教育委員会編, 下之郷遺跡発掘調査報告書—総括編—		pp.16-23	無
7	外山秀一	下之郷遺跡の立地環境の復原	単著	2017年6月	滋賀県守山市教育委員会編, 下之郷遺跡発掘調査報告書—総括編—		pp.156-161	無
8	森勇一	愛知県八竜湿地のボーリング試料から発見された昆虫化石II	共著	2017年6月	八竜湿地調査研究会, 名古屋市八竜湿地ボーリング調査報告書(2)	小野知洋	pp.24-30	無
9	森勇一	金城学院大学内復元湿地における珪藻群集について	共著	2017年6月	八竜湿地調査研究会, 名古屋市八竜湿地ボーリング調査報告書(2)	林 優希, 小野知洋	pp.42-52	無
10	Chie Ishida	Interpelación o autonomía. El caso de la identidad nikkei en la comunidad argentino-japonesa	共著	2017年6月	Alteridades, vol. 27, no. 53	Pablo Gavirati	pp.59-71	有
11	Hiroo Nasu	Archaeological Application of Airborne LiDAR with Object-Based Vegetation Classification and Visualization Techniques at the Lowland Maya Site	共著	2017年6月	Remote Sensing, Vol.9, No.6	Takeshi Inomata 他7名	pp.1-27	有

		of Ceibal, Guatemala						
12	森勇一	青森県の縄紋時代中・後期遺跡出土土器から得られた幼虫圧痕について	共著	2017年6月	人類学雑誌, 125巻, 1号	安達香織他2名	pp. 65-73	有
13	中村豊	弥生時代(中国・四国)	単著	2017年6月	ニューサイエンス社, 考古学ジャーナル, 第699号	中西利典他8名	pp.57-58	無
14	山田和芳 & 藤木利之	フィリピン・ラグナ州, サンバプロ湖沼群の音波探査調査に基づく湖底地形と形成期の推定	共著	2017年6月	月刊地球, 号外地球, 67巻,	原口強他10名	pp.36-41	無
15	山田和芳 & 藤木利之	フィリピン・ラグナ州, サンバプロ湖沼群から得たピストンコア試料の層序と物性	共著	2017年6月	月刊地球, 号外地球, 67巻		pp.42-47	無し
16	Takahiro Tomita	The Dynamics of Milk Cultures in Central Eurasia: Insights from Comparing ‘Yoruk: Pastoral Nomads in Turkey’ with other Altaic Groups	単著	2017年7月	Altay Communities: Historical Issues		pp. 197-205	有
17	河角直美	二つの『京都市明細図』の概要とそのGISデータベースの構築—京都府立総合資料館所蔵本と長谷川家住宅所蔵本	共著	2017年7月	地理学評論, 日本地理学会, 90巻4号	矢野桂司他1名	pp.376-389	有
18	Sayaka Ogawa	The System of Circulating of the Debt: The Money Transfer System of Mobile Phone in Tanzania. In. Inaga S. ed. A Pirate Views of World History: A Reversed Perception of Order of Things From a Global Perspective	単著	2017年8月	International Research Center for Japanese Studies		pp.47-61	無
19	中村豊	徳島市三谷遺跡の発掘調査—縄文弥生移	単著	2017年9月	ニューサイエンス社, 考古学ジャーナル, 第702号		pp.34-35	無

		行期の研究-						
20	Takeshi Nakagawa	Black ceramic spheres as marker grains for microfossil analyses, with improved chemical, physical, and optical properties	共著	2017年10月	Quaternary International, Vol.455	Ikuko Kitaba	pp.166-169	有
21	那須浩郎	小佐原遺跡出土の植物遺体について	共著	2017年10月	奥信濃文化, 29号	中沢道彦	pp.14-19	無
22	小川さやか	オートエスノグラフィに溢れる根拠なき世界の可能性	単著	2017年10月	青土社, 現代思想, 45号		pp.123-137	無
23	近藤宏	チマロンの形象が導く考え “Lo que me conduce a pensar la figura del chimarrón”	単著	2017年11月	World Council of Anthropological Association, 自分の言葉で			無
24	小川さやか	クリーンな政治と「融通」のあいだ	単著	2017年11月	公益財団法人渋沢栄一記念財団, 青淵, 824号		pp.20-22	無
25	Hiroo Nasu	Prehistoric transitions to sedentarization and agriculture in temperate and tropical regions	単著	2017年11月	Senri Ethnological Studies, Vol.95		pp.19-34	有
26	岩田京子	1930年代京都嵐山における森林管理計画—風致施業の伝統と科学	単著	2017年11月	日本科学史学会生物学史分科会, 生物学史研究 96号		pp.79-81	無
27	石田智恵	やわらかな人種主義：アルゼンチンにおける「ハポネス」の経験から	単著	2017年12月	早稲田文化人類学会, 文化人類学研究, 18巻		pp.87-111	有
28	中村大	『防長風土注進案』に記載された農作物と採集品にみられる3つの空間分布類型	共著	2018年1月	山口大学教育学部, 山口大学教育学部研究論叢, 第67巻	五島淑子	pp.163-172	無
29	松森智彦 & 中村大	『防長風土注進案』産物・産業記載データベースシステムの開発と公開	共著	2018年1月	山口大学教育学部, 山口大学教育学部研究論叢, 第67巻	五島淑子	pp.173-177	無
30	小川さやか	チョンキンマンシヨンのボスは知っている—香港のアングラ	単著	2018年1月	春秋社, Web 春秋			無

		経済と日本の未来 第1回 ポスとの出 会い						
31	山田和芳	浜名湖は本当に塩水 化したかー明応巨大 地震(1498年)の天津 波を考えるー	共著	2018年2月	月刊さなるこ新聞, 32号	瀬戸浩二他1名	pp.7-9	無
32	小川さやか	チョンキンマンショ ンのボスは知ってい るー香港のアングラ 経済と日本の未来 第2回 チョンキンマンショ ンのタンザニア人た ち	単著	2018年2月	春秋社, Web 春秋			無
33	高橋学	巨内陸直下型地震・ 火山噴火・プレート 型地震発生モデルー 巨大地震・大地震・火 山噴火発生前後ー1	単著	2018年3月	雄山閣, 環太平洋文明研究 第2号		pp.1-16	無
34	河角直美	近代京都における市 街地の拡大と近郊農 村の景観変化	単著	2018年3月	雄山閣, 環太平洋文明研究 第2号		pp.79-86	無
35	神松幸弘	縄文人の資源利用と 土地利用に関する 生態学的研究(1)	単著	2018年3月	雄山閣, 環太平洋文明研究 第2号		pp.59-78	無
36	中村大	縄文時代の人口を推 定する新たな方法ー 東北地方北部を対象 とした試みー	単著	2018年3月	雄山閣, 環太平洋文明研究 第2号		pp.39-58	無
37	矢野健一	西日本縄文社会の 「弥生化」	単著	2018年3月	雄山閣, 環太平洋文明研究 第2号		pp.87-100	無
38	富田敬大	変わりゆくモンゴル 遊牧民のくらしー都 市近郊における人 口・家畜頭数の動向 から読み解く	単著	2018年3月	雄山閣, 環太平洋文明研究 第2号		pp.17-38	無
39	小川さやか	チョンキンマンショ ンのボスは知ってい るー香港のアングラ 経済と日本の未来 第3回 思慮ぶかき 無関心	単著	2018年3月	春秋社, Web 春秋			無
40	矢野健一	鳥取大学所蔵・青島 遺跡出土の縄文土器 について	共著	2018年3月	鳥取県立博物館研究報告, Vol.55	高田健一他2名	pp.17-34	有

41	島田伸敬	手技訓練補助のための正常異常状態対で構成される状態遷移モデルによる異常動作の検出	共著	2018年3月	電子情報通信学会論文誌 D, Vol.J101-D, No.3	小川陽子他4名	pp.549-559	有
42	Takeshi Nakagawa, Junko Kitagawa, Keitaro Yamada	Integrating the Holocene tephrostratigraphy for East Asia using a high-resolution cryptotephra study from Lake Suigetsu (SG14 core), central Japan	共著	2018年3月	Quaternary Science Reviews, Vol.138	Danielle McLean 他7名	pp.36-58	有
43	Sayaka Ogawa	Impact of Imported Chinese Furniture on the Local Furniture Sector in Arusha City, Tanzania: Focusing on the Strategies of Furniture Makers for Using Indigenous Timbers	単著	2018年3月	Kyoto University, The Center for African Area Studies, African Study Monograph, No.55		pp.27-47	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	神松幸弘	古代甘味料「あまつら」の学際プロジェクト—古文書読解と食品化学でわかった新たな事実	2017年4月	ライスボールセミナー,立命館大学衣笠キャンパス	
2	矢野健一	縄文時代の人口問題	2017年4月	立命館大学環太平洋文明研究センター第13回定例研究会,立命館大学衣笠キャンパス,京都	
3	Takeshi Nakagawa	A new high resolution glacial flood history from Japan based on the Lake Suigetsu sediment record	2017年4月	19th EGU General Assembly, Vienna, Austria	Schlolaut Gordon 他5名
4	石田智恵	強制失踪の暴力に抗する市民社会：アルゼンチンにおける近年の動向	2017年4月	日本ラテンアメリカ学会, 東日本部会研究会, 専修大学神田キャンパス・東京	
5	Sayaka Ogawa	The Logic of “Open Reciprocity” of the Tanzanian Union in Hong Kong and China	2017年5月	International Union of Anthropology and Ethnology 2017, Ottawa University Canada	
6	中川毅&北	福井県水月湖の年縞堆積物	2017年5月	日本地球惑星科学連合2017年大会, 幕	山田圭太郎他2名

	川淳子	中に記録された地震イベント		張メッセ・千葉県千葉市	
7	北川淳子	景観変化の要因としての災害—福井県あわら市北潟湖地域を例として	2017年5月	日本地球惑星科学連合2017年大会, 千葉県千葉市幕張メッセ	吉田明弘他2名
8	北川淳子&山田和芳	福井県日向湖における年縞堆積物の形成過程と近年の周期的変動	2017年5月	日本地球惑星科学連合2017年大会, 千葉県千葉市幕張メッセ	瀬戸浩二他2名
9	北川淳子	北潟湖の湖沼堆積物を用いた津波災害調査	2017年5月	日本地球惑星科学連合2017年大会, 千葉県千葉市幕張メッセ	衣川公太郎他3名
10	山田和芳	静岡県浜名湖の過去2000年の自然環境史	2017年5月	日本地球惑星科学連合2017年大会, 千葉県千葉市幕張メッセ	瀬戸浩二他2名
11	福本侑	珪藻を用いた湖沼堆積物の分析	2017年5月	環太平洋文明研究センター第14回定例研究会, 立命館大学・衣笠キャンパス	
12	小川さやか	ケータイは私のオフィス—香港・中国のタンザニア人たちのビジネスとコミュニティ	2017年5月	日本アフリカ学会, 第54回学術大会, 信州大学教育学部, 長野	
13	岩田京子	都市近郊の環境管理に関する知見—昭和戦前期の京都を事例に	2017年5月	第8回国家神道・国体論研究会「近代日本の環境形成と宗教・ナショナリズム」, 國學院大學たまプラーザキャンパス, 横浜市	
14	川村貞夫	2A2-F10 ホールセンサ利用による関節トルク計測可能水中ロボットアーム開発	2017年5月	ロボティクス・メカトロニクス講演会2017 in 福島 (ROBOMECH2017), ビッグパレットふくしま, 福島郡山市	宮崎泰生他1名
15	Yoshinori Yasuda	The meaning and significance of Hanon Marr regeneration towards Korean Government	2017年6月	Sharing a common vision for Asia's future, Jeju Island, Korea	
16	安田喜憲	三保松原の保全と年縞	2017年6月	環境化学会, 静岡県立大学	
17	福本侑	湖沼の堆積物からわかる過去の自然環境	2017年6月	ライスボールセミナー, 立命館大学衣笠キャンパス	
18	山田和芳	「ミュージアムキャラバン」の製作	2017年6月	日本展示学会第36回研究大会, 名古屋大学	岸本年郎他4名
19	富田敬大	社会主義モンゴルにおける土地法令の変遷とその意味—遊牧民の「定住化政策」をどう理解するか	2017年6月	近現代モンゴル社会の変容に関する研究会, 明治大学駿河台キャンパス・東京	
20	富田敬大	遊牧はどのようにして変えられたのか—社会主義モンゴルの土地法令にみる土地・家畜・人の関係	2017年6月	立命館大学環太平洋文明研究センター第15回定例研究会, 立命館大学衣笠キャンパス	
21	矢野健一, 川村貞夫, 島田伸敬	葛籠尾崎湖底遺跡の地形測量	2017年6月	日本文化財科学会第34回大会, 東北芸術工科大学, 山形市	近藤芽衣他1名

22	中村大	所変われば意味変わる：亀ヶ岡文化期の墓制の地域性と その解釈	2017年6月	近江貝塚研究会, 第284回研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター, 滋賀県大津市	
23	Koji Takayama	The Juan Fernandez Archipelago : a model system for studying plant evolution and biogeography islands	2017年7月	IBC Congress, China	
24	中村大	遺跡データベースから人口を推定する—統計解析とGISで変動と地方差を読み解く—	2017年7月	環太平洋文明研究センター, 第16回定例研究会, 立命館大学衣笠キャンパス, 京都市	
25	神松幸弘	古代の甘味料”あまつら”の復元	2017年7月	人間文化研究機構 国文学研究資料館, 第3回日本語の歴史的典籍国際研究集会, 国文学研究資料館, 立川市	
26	Chie Ishida	El japonés y el nikkei como categorías postcoloniales para resistir al racismo	2017年8月	Segundo Encuentro de Estudios Japoneses en Argentina, Ciudad Autónoma de Buenos Aires, Centro Cultural de la Cooperación	
27	Junko Kitagawa & Kazuyoshi Yamada	Formative process of varve sediments and recent precipitation record in the Lake Hiruga, Fukui Prefecture, Central Japan	2017年9月	The 3rd ASQUA Conference 2017, Lotte City Hotel Jeju, Jeju Island, Korea	Koji Seto 他2名
28	高山浩司	フランス領ポリネシアにおける汎熱帯種子海流散布植物の分布と内陸環境への進出	2017年9月	第81回日本植物学会, 東京理科大学	
29	アルベルト ユーストーマス・モリ	華人キリスト者の文脈形成—世界華人福音運動を通して	2017年9月	日本宗教学会, 第76回学術大会, 東京大学本郷キャンパス, 東京	
30	Nobutaka Shimada	Grasping Pattern Estimation Based on Co-occurrence of Object and Hand Shape	2017年10月	Machine Perception and Robotics, The 13th Joint Workshop on Machine Perception and Robotics (MPR2017), Beijing, China • Peking University	Takuya Kawakami 他1名
31	山田和芳	汽水域を百学連環で考える	2017年10月	汽水域研究会第9回大会, 高知市・高知大学	
32	山田和芳	静岡県浜名湖(引佐細江)における後期完新世の堆積環境の変遷(予報)	2017年10月	汽水域研究会第9回大会, 高知市・高知大学	藤井悠史他2名
33	北川淳子	水月湖年縞に認められる洪水層と周辺植生の変遷	2017年10月	日本珪藻学会第37回研究集会, 福井・三方青年の家	
34	福本侑 & 山田和芳	秋田県田沢湖の完新世の珪藻化石群集変動	2017年10月	日本珪藻学会第37回研究集会, 福井・三方青年の家	池田太一他5名
35	河角直美	クラウドソーシングを活用した写真資料(古写真)の	2017年10月	第26回地理情報システム学会研究発表大会, 宮城県・宮城大学	高橋彰他6名

		地理情報等の同定方法の検討とその課題—京都市電のデジタルアーカイブ写真を事例として—			
36	外山秀一	水田址の地形環境	2017年11月	日韓農耕研究検討会, 皇學館大学	
37	小川さやか	オートエスノグラフィに溢れる根拠なき世界の可能性—SNS に伸張したフィールドとアナキズム	2017年11月	国立民族学博物館共同研究若手『テクノロジー利用を伴う身体技法に関する学際的研究』, 吹田市・国立民族学博物館	
38	神松幸弘	縄文人のエコロジーを考える—資源、持続性、土地利用—	2017年11月	立命館大学環太平洋文明研究センター第17回研究会, 京都市立命館大学衣笠キャンパス	
39	山田和芳	浜名湖における明応地震(1498年)の津波による塩水化は本当にあったのか	2017年12月	第26回浜名湖をめぐる研究者の会, 浜松市・東京大学大学院農学生命科学研究科附属水産実験所	瀬戸浩二他3名
40	那須浩郎	縄文時代のヒエ属種子の大型化: 縄文時代にヒエはドメスティケーションされたのか?	2017年12月	第32回日本植生史学会大会, 宮崎・宮崎県県電ホール	
41	中川毅	ビートたけしの達人対談	2017年12月	新潮45, 2017年12月号, pp184-195	
42	Junko Kitagawa & Kazuyoshi Yamada	Formative process of varve sediments and recent precipitation record in the Lake Hiruga, Fukui Prefecture, Central Japan	2017年12月	AGU fall meeting, アメリカ・ニューオーリンズ	Koji Seto 他2名
43	Hiroshi Kondo	Mirar materiales desde predicativos	2017年12月	XII Reunion del Antropologia Mercosur, Facultad de Humanidades y Ciencias Sociales Universidad Nacional de Misiones, Posadas, Argentina	
44	Kazuyoshi Yamada	Changes in the composition and diversity of cyanobacterial communities revealed by sedimentary DNA in Lake Fukami-ike	2017年12月	The 3rd UST-USP Joint Symposium, 大津市・滋賀県立大学	Shigeko Kimura 他8名
45	那須浩郎	ユーラシア農耕拡散の十字路口—ウクライナ新石器時代～金石併用時代の栽培穀物調査概報	2017年12月	第32回日本植生史学会大会, 宮崎・宮崎県県電ホール	遠藤英子他2名
46	Sayaka Ogawa	The logic of “open reciprocity” in the business practice and communality of Tanzanian traders in	2017年12月	International Symposium France-Japan Area Study Forum, 京都市・京都大学	

		China and Hong Kong with the special reference to the used car trading through the crowdfunding			
47	富田敬大	社会主義モンゴルにおける 牧畜システムの変容とその 特徴—土地法令および土地 利用の観点から	2017年12月	北東アジア地域研究会, 吹田市・国立民 族学博物館	
48	小川さやか	開かれた互酬性と「運」の 贈与	2017年12月	国立民族学博物館共同研究『確率的事 象と不確実性の人類学—「リスク社会」 化に抗する世界像の創出』, 吹田市・国 立民族学博物館	
49	島田伸敬	手指リハビリのための非接 触かつ自動的な親指先可動 範囲計測装置の開発	2017年12月	横断型基幹科学技術研究団体連合, 第8 回横幹連合コンファレンス, 京都市・立 命館大学朱雀キャンパス	浅野奈生他2名
50	島田伸敬	重度四肢機能障害者のため の舌操作型入出力デバイス	2017年12月	横断型基幹科学技術研究団体連合, 第8 回横幹連合コンファレンス, 京都市・立 命館大学朱雀キャンパス	横田加保子他1名
51	島田伸敬	操作履歴からユーザに適応 する舌操作型ポインティン グデバイス	2017年12月	横断型基幹科学技術研究団体連合, 第8 回横幹連合コンファレンス, 京都市・立 命館大学朱雀キャンパス	小川陽子
52	島田伸敬	対象の状態変化を伴う道具 の操りプロセスの記述・想 起・再現	2017年12月	横断型基幹科学技術研究団体連合, 第8 回横幹連合コンファレンス, 京都市・立 命館大学朱雀キャンパス	松尾直志
53	島田伸敬	物体形状と持ち方の共起性 に基づく把持パタンの推定	2017年12月	計測自動制御学会, 第18回計測自動制 御学会システムインテグレーション部 門講演会(SI2017), 仙台市青葉区・仙台 国際センター	川上拓也他1名
54	上峯篤史	東アジアにおける石英製石 器群(1)	2017年12月	パレオアジア文化史学・アジア新人文化 形成プロセスの総合的研究, パレオア ジア文化史学 第4回研究大会, 東京 都・文京区, 東京大学・本郷キャンパス	
55	矢野健一	縄文からみた弥生のはじま り	2017年12月	京都府埋蔵文化財研究会, 第24回京都 府埋蔵文化財研究会 弥生文化出現前 後の集落について, 京都府長岡京市・長 岡京市立図書館	
56	高橋学	環太平洋地域における巨大 地震と火山活動	2017年12月	立命館大学環太平洋文明研究センター 第18回研究会, 京都市立命館大学衣 笠キャンパス	
57	河角直美	デジタルアーカイブ写真の GIS化とその活用—「京都 の鉄道・バス写真データベ ース」の構築—	2017年12月	じんもんこん 2017 人文科学とコンピ ュータシンポジウム, 大阪市・大阪市立 大学	山本峻平他4名
58	山田和芳	静岡県中部、三保海岸の景 観変化における人為的影響 について	2018年1月	汽水域研究会第10回大会, 松江市・島根 大学	

59	山田和芳	静岡県浜名湖(引佐細江)における後期完新世の堆積環境の変遷	2018年1月	汽水域研究会第10回大会, 松江市・島根大学	藤井悠史他2名
60	北川淳子 & 山田和芳	福井県日向湖・三方湖・久々子湖周辺地域間の植生変遷比較	2018年1月	島根大学 エスチュアリー研究センター第25回新春恒例汽水域研究発表会 汽水域研究会第6回例会, 合同研究発表会, 松江市・島根大学	篠塚良嗣他1名
61	森下直紀	カナダ水俣病事件の現状について	2018年1月	第12回水俣病事件研究交流集会, 水俣市公民館, 熊本県水俣市	
62	北川淳子 & 山田和芳	福井県日向湖堆積物に記録される洪水による植生への影響	2018年2月	公開シンポジウム 自然を活かして防災する—災害と恵みのかかわり—, 福井・若狭青年の家	篠塚良嗣他3名
63	Nobutaka Shimada	Grasping Pattern Estimation Based on Co-occurrence of Object and Hand Shape	2018年2月	Frontiers of Computer Vision (IW-FCV), 24th Int'l Workshop on Frontiers of Computer Vision (FCV2018), 函館市・公立ほこだて未来大学	Takuya Kawakami 他2名
64	中村大	Infants and Children in Burial Practices During Japanese Prehistory	2018年3月	Evolutionary anthropology, The 2nd Kyoto Workshop on Evolutionary Anthropology, 京都市左京区・京都大学 吉田泉殿	
65	島田伸敬	手指リハビリテーションのための拇指先端可動域の非接触自動計測システム	2018年3月	情報処理学会, コンピュータビジョンとイメージ研究会 (CVIM) No.11, 滋賀県草津市・立命館大学びわこくさつキャンパス	浅野奈生他2名
66	島田伸敬	物体のパーツ形状と持ち方の共起性に基づく把持パターンの推定	2018年3月	情報処理学会, コンピュータビジョンとイメージ研究会 (CVIM) No.11, 滋賀県草津市・立命館大学びわこくさつキャンパス	川上拓也他1名
67	Kazuyoshi Yamada	Preservation of Mino-no-Matsubara pine tree grove	2018年3月	The 2nd International Symposium on Creating the Fujinology - nature/culture in Anthropocene, 富士宮市・富士宮市民文化会館	Daisuke Sugawara
68	山田和芳	トレンドとイベントから成る長期環境変動に対するプランクトン群集の応答: 年縞堆積物を用い過去に遡る	2018年3月	第65回生態学会大会, 札幌市・札幌コンベンションセンター	大竹裕里恵他4名
69	高山浩司	広域分布する海流散布植物の比較系統地理学研究	2018年3月	日本植物分類学会第17回大会, 金沢市・金沢歌劇座	
70	高山浩司	小笠原諸島のラン科の実体と起源の解明(予報)	2018年3月	日本植物分類学会第17回大会, 金沢市・金沢歌劇座	遊川知久他4名
71	高山浩司	南硫黄島のラン科植物相	2018年3月	日本植物分類学会第17回大会, 金沢市・金沢歌劇座	加藤英寿他4名
72	高山浩司	小笠原諸島のエビネ属の実体と起源	2018年3月	日本植物分類学会第17回大会, 金沢市・金沢歌劇座	山下由美他4名
73	富田敬大	商品と非商品のあいだ—モ	2018年3月	生態人類学会第23回研究大会, 沖縄県	

		ンゴル都市近郊における乳製品の生産・流通を事例に		南城市・ユインチホテル南城	
74	河角直美	古写真データベースの街歩きへの活用	2018年3月	日本地理学会 2018年春季学術大会, 東京都小金井市・東京学芸大学	山本峻平他 5名
75	神松幸弘	環境 DNA 手法によるヒダサンショウウオの定点モニタリング	2018年3月	日本生態学会第65回大会, 北海道札幌市	富田勢他 1名

4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第13回定例研究会	衣笠キャンパス	2017年4月	20名	
2	第14回定例研究会	衣笠キャンパス	2017年5月	12名	
3	第15回定例研究会	衣笠キャンパス	2017年6月	9名	
4	第16回定例研究会	衣笠キャンパス	2017年7月	8名	
5	第17回定例研究会	衣笠キャンパス	2017年11月	12名	
6	第18回定例研究会	衣笠キャンパス	2017年12月	10名	
7	第19回定例研究会	衣笠キャンパス	2018年2月	11名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）

No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
(報道発表)				
1	中川毅	立命館大、約1万2000年前の温暖・寒冷が欧州とアジアで対照的と判明	マイナビニュース	2017年4月4日
2	中川毅	1.2万年前、アジアは寒かった 研究進む「古気候学」	日本経済新聞	2017年4月23日
3	高橋学	3月連続地震は兆候か 九州北部「GW明け大地震」に要警戒	日刊ゲンダイ	2017年5月6日
4	安田喜憲	欧米文明からの脱却	電気新聞	2017年5月9日
5	高橋学	大地震を連続的中させた高橋教授から「5・13博多に警戒」とメールが届いた	週間女性	2017年5月11日
6	川村貞夫	キャンパス新景「立命館大 水中ロボ 琵琶湖に育つ」	日本経済新聞 社会面	2017年6月3日
7	高山浩司	富士山の雲観測 阿部正直を紹介	静岡新聞	2017年6月10日
8	中川毅	「地球温暖化はでっち上げ」か 気候変動を繰り返した46億年	北海道新聞	2017年6月13日
9	安田喜憲	トランプ大統領のパリ協定離脱	電気新聞	2017年6月19日
10	山田和芳	ルルちゃんがいく	鷺の子 ECO 新聞	2017年6月30日
11	北川淳子	福井・三方五湖の湖底の花粉を分析	中日新聞	2017年7月8日
12	中川毅	7万年分の縞模様は「時の物差し」 奇跡の湖が福井に？	朝日新聞	2017年7月15日

13	川村貞夫 & 矢野健一	湖底遺跡の謎探れ 小型ロボ、深層スイスイ	日本経済新聞 電子版	2017年7月17日
14	高橋学	4つの条件ビタリ…夏休みは「長野北部」の大地震に要注意	日刊ゲンダイ	2017年7月17日
15	中川毅	講談社3賞に小泉今日子さんら	日本経済新聞	2017年7月20日
16	中川毅	講談社ノンフィクション賞など3賞決まる	毎日新聞	2017年7月20日
17	中川毅	講談社ノンフィクション賞に梯さん =エッセイ賞は小泉今日子さん	時事通信社	2017年7月20日
18	高橋学	〔長野県北部から新潟県に大地震の兆候か〕不気味な夏7月下旬から8月上旬が危ない!? 立命館大・高橋学教授が警告	週間サンデー毎日	2017年7月25日
19	安田喜憲	110年後の未来を考える	建築新聞	2017年8月8日
20	中川毅	講談社エッセイ賞に小泉今日子さん 穂村弘さん	産経ニュース	2017年8月9日
21	矢野健一	米原・杉沢遺跡 立命館大生が発掘調査	中日新聞びわこ版	2017年8月24日
22	矢野健一	遺跡&現代美術のコラボ 米原市杉澤で「地上と地中」の展覧会	滋賀夕刊	2017年8月25日
23	矢野健一	縄文遺跡 アートに	京都新聞滋賀版	2017年8月29日
24	矢野健一	アートで遺跡発掘再現 米原・杉沢遺跡	読売新聞滋賀版	2017年8月31日
25	安田喜憲	人類一万年の文明論	電気新聞	2017年9月25日
26	中川毅	ラジオ深夜便「明日への言葉」	NHK ラジオ(再放送)	2017年10月7日
27	小川さやか	その日暮らしの面白さ×貸し借りで人間関係維持	京都新聞 11面	2017年10月25日
28	小川さやか	インフォーマルな知恵重視 一期一会尊ぶ価値観再び	京都新聞 11面	2017年10月26日
29	安田喜憲	人類1万年の文明論 環境考古学からの警鐘	電気新聞	2017年11月17日
30	矢野健一	水中遺跡研究が各地で加速 九博でシンポジウム	朝日新聞第2福岡版	2017年11月28日
31	那須浩郎	縄文人は農耕をしたか 大学×地域、歴史の謎挑む 植物大型化、解明目指し/石川	毎日新聞(石川版)	2017年12月4日
32	那須浩郎	縄文人が農耕?謎に挑む	毎日新聞(岡山版)	2017年12月21日
33	矢野健一	湖底の7世紀土器撮影 立命大グループ 完全な形 土器器か	京都新聞地域総合 24	2017年12月27日
34	矢野健一	水中ロボ、土器発見 琵琶湖 水深71.5m	朝日新聞社会 25	2017年12月27日
35	矢野健一	琵琶湖底に皿形土器 飛鳥一平安期 竹生島信仰と関連か	中日新聞滋賀 A	2017年12月28日

36	矢野健一	歴史的発見! 琵琶湖「湖底遺跡」日本史上最深の古墳時代土器を発掘!!	TBS テレビ 立入禁止の向こう側! ココから先は人間 NG	2017年12月28日
37	中川毅	視点・論点「奇跡の湖が語る地球気候	NHK E テレ(再放送)	2017年12月29日
38	森下直紀	水俣病事件研究交流会 カナダ水銀汚染紹介 坂本さんから報告も	熊本日日新聞朝刊3面	2018年1月8日
39	森下直紀	坂本しのぶさん「私の言葉伝わった」カナダ先住民居留地の浄化対策報告 水銀汚染 多角的に議論	西日本新聞朝刊18面	2018年1月8日
40	矢野健一	琵琶湖底 71 メートルから土器 滋賀の遺跡 最深の発見	読売新聞28A	2018年1月9日
41	矢野健一	湖底の土器 水深更新	読売新聞夕刊	2018年1月17日
42	安田喜憲	広辞苑に年縞が採録された	電気新聞	2018年2月21日
43	中村大	墓は子宮がシンボライズされた再生のための施設である 縄文人の心を読み解き、物質文化の意味を理解する新たな解釈と方法論	図書新聞4面	2018年3月3日
(講演会)				
44	山田和芳	気候変動とはなにか	NPO法人静岡県自然史博物館ネットワーク総会 記念講演	2017年4月23日
45	安田喜憲	農村文明の時代	農村文明創成日本塾	2017年5月15日
46	高橋学	環境史からみた東北地方・太平洋沖地震津波	川西市生涯学習短期大学レフネックス,川西市中央図書館	2017年5月20日
47	外山秀一	遺跡の環境復原ー微地形分析とプラント・オパール分析の成果ー	三輪山セミナー, 奈良県大神神社	2017年5月27日
48	高橋学	巨大地震は突然起きないー災害で死なないための知恵ー	川西市生涯学習短期大学レフネックス,川西市中央図書館	2017年5月27日
49	山田和芳	年縞が解き明かす地球環境史	房総地学会	2017年5月29日
50	安田喜憲	日本の未来を守るために今、企業ができることー温暖化防止のための提言ー	知製鋼K. K.	2017年6月5日
51	山田和芳 & 安田喜憲	環境考古学から環境文明論へ	第26回環境化学討論会	2017年6月8日
52	安田喜憲	自然と人間の共生	滋賀県近江八幡	2017年6月9日
53	安田喜憲	ミュージアム開館1年の状況と今後の戦略	静岡ロータリークラブ	2017年6月12日
54	山田和芳 & 安田喜憲	ミュージアム開館1年の状況と今後の戦略について	静岡ロータリークラブ卓話講演	2017年6月12日
55	矢野健一	縄文から弥生へー環境変化が与えた影響	立命館土曜講座	2017年6月17日
56	森勇一	海部南部で心配される地震災害ー冬の深夜、大地震が起きたら	愛知県弥富市防災講演会, 十四山スポーツセンター	2017年6月19日

57	中川毅	暴れる気候と暴れない気候—人類は気候の激変期をどう生きたか—	立命館土曜講座	2017年6月24日
58	矢野健一	水中ロボットを利用した琵琶湖葛籠尾崎湖底遺跡の調査	平成29年度九州国立博物館文化交流展特別展示「水の中からよみがえる歴史-水中考古学最前線-」におけるシンポジウム「水中文化遺産の多様性—縄文から龍馬まで—」,九州国立博物館	2017年6月26日
59	安田喜憲	災害と文明	福岡リーダー塾	2017年8月1日
60	安田喜憲	宗像と富士山	宗像国際100人会議シンポジウム	2017年8月27日
61	森勇一	養老町教養の地球科学—養老の石・養老の山・養老断層	養老町歴史講座	2017年9月3日
62	高山浩司	海を渡る植物～海流散布植物の自然史	東北大学植物園市民公開講座	2017年9月16日
63	安田喜憲	年縞発見について	福井県	2017年9月17日
64	中川毅	暴れる気候と暴れない気候—“想定外”の時代をどう生きるか—	環境研究会	2017年9月25日
65	小川さやか	タンザニアにおけるオルタナティブな路上空間のつくりかた	(ミサワホーム近畿株式会社主催)都市のインフォーマリティが生み出すオルタナティブ,神戸市・ポートアイランド北公園	2017年10月15日
66	市木尚利	日本における埋葬実践の歴史文化的変化について:縄文時代から21世紀まで(Cambio histórico y cultural de las practicas funerarias en Japón: Desde el Periodo Jomon hasya el Siglo XXI d.C.)	埋葬の考古学,ペルー共和国リマ市・ポンティフィシア・ペルー・カトリカ大学(Pontificia Universidad Catolica del Peru)	2017年10月20日
67	外山秀一	稲と稲作の起源と伝播	岡山理科大学学生地談話会講演会,岡山市・岡山理科大学	2017年10月20日
68	那須浩郎	東アジアにおける植物のドメスティケーションと主食の形成過程	人間文化研究機構基幹研究プロジェクト民博ユニット「文明社会における食の布置」ワークショップ,本郷・東京大学	2017年10月28日
69	安田喜憲	「龍の文明・太陽の文明」,龍 Dragon: Symbol of King, Sprit of Water	2017KNMM International Academic Conference,韓国・釜山市海洋博物館,招待講演	2017年11月1日
70	中村豊	レプリカ法—ミクロの世界から食生活をのぞく—	徳島県立埋蔵文化財総合センター 考古学専門講座,徳島県板野町・徳島県埋蔵文化財センター	2017年11月12日
71	小川さやか	Living for Today の人類学	信州大学同窓会近畿支部,大阪市・クライントンホテル新大阪	2017年11月16日
72	小川さやか	瀬戸際の狡知と笑い	公開勉強会『内臓語にもぐる旅』,京都市・京都芸術センター	2017年11月16日
73	中川毅	急激な(経営)環境変化との向き合い方を考える—人類は気候の激変期をどう生きたか—	経営トップセミナー,愛知・中小企業大学校瀬戸校	2017年11月17日
74	山田和芳	しましまの魅力	第7回ミュージアム学習会,静岡市・ふじのくに地球環境史ミュージアム	2017年11月18日
75	市木尚利	中期ホライズンから後期までのイコノグラフィーの変化:ワウラ様式と	ワイカンと歴史文化,ペルー共和国リマ市・ワイカン教会サン・アンドレス小教区	2017年11月25日

		チャンカイ様式 (Iconografía y su Cambio en la Cerámica del Horizonte Medio a los Periodos Tardíos: Estilo Huaura y Estilo Chancay)		
76	安田喜憲	森の文明論：森の意義・重要性を文明論から考えてみよう	大津・滋賀大学環境支援士講演	2017年11月27日
77	アルベルト ウス＝ト マス モリ	華人基督教的跨国事工在傳統華人研究中的定位	台湾桃園市・中原大学宗教研究所	2017年12月11日
78	アルベルト ウス＝ト マス モリ	今日における華人キリスト者研究の意義	吹田市・大阪大学グローバルイニシアティブ・センター	2018年1月10日
79	中川毅	人類と気候の10万年史-想定外の世界をどう生きるか-	朝日JTB・交流文化塾, 名古屋・朝日カルチャー スクール	2018年1月14日
80	小川さやか	不確実な都市を生きぬくヒント	(株式会社ロフト・ワーク主催)不確実性の為のツ ールボックス 第1回, 京都府京都市	2018年1月19日
81	中川毅	七万枚の縞を数える-もっとも正確な地質学の時計-	第26回放射線利用総合シンポジウム, 大阪・ 大阪大学中之島センター	2018年1月22日
82	Hiroo Nasu	Why Jomon people did not choose to go for an agricultural society?	International Symposium, Afro-Eurasian Archaeobotany: New perspectives, new approaches, 奈良・奈良文化財研究所	2018年1月28日
83	小川さやか	アフリカの古着流通-タンザニアを事例に	(持続可能な消費社会、地域資源発掘 ASAA、主 婦連合会、主婦会館主催)古着回収はどうあるべ きか連続講座 第3回, 東京都・主婦会館プラザ エフ	2018年2月8日
84	山田和芳	静岡県自然环境～富士山から駿河湾まで～	富士宮市制75周年記念事業富士宮市立中央図書 館講演会, 富士宮市・富士宮市立図書館	2018年2月22日
85	那須浩郎	縄文人はマメを栽培したのか?—縄文時代の植物の大型化—	御所野縄文博物館平成29年度調査成果発表会, 一戸・御所野縄文博物館	2018年2月25日
(その他)				
86	矢野健一	芸術と考古学～time,timer,timest 夏休みの遺跡～プレ展 *矢野は共同で展示の企画と作品制作を担当	ヴォイスギャラリー (京都府京都市) 横谷奈歩・松尾恵・UMMMほか	2017年6月16日～24日
87	矢野健一	time,timer,timest～夏休みの遺跡 *矢野は共同で展示の企画と作品制作を担当	杉沢区集会所・玉泉寺 (滋賀県米原市) 横谷奈歩・松尾恵・UMMM	2017年8月25日～31日
88	富田敬大	遊牧はどのようにして変えられたのか— 社会主義モンゴルの土地法制にみる土地・家畜・人の関係	環太平洋文明研究センターニューズレター, No.6	2017年11月20日
89	矢野健一	平成29年度立命館大学文学部考古学・文化遺産専攻京都市考古資料館合同企画展「布と石の考古学入門」(企画・開催・パンフレット作成)	京都市・京都市考古資料館	2017年12月12日～2018年1月21日

90	市木尚利	大沢たかお インカ帝国隠された真実にせまる～マチュピチュが解き明かす最大の謎(協力)	S-TBS	2018年1月12日・19日放送
91	矢野健一	京都市考古資料館特別記念講演会 尾関清子氏「縄文の布と服」 (企画・開催・司会)	京都市考古資料館	2018年1月13日
92	矢野健一	京都市考古資料館ワークショップ 福島美穂氏「創作アンギン実演および体験」(企画・開催・司会)	京都市考古資料館	2018年1月14日
93	高橋学	ビートたけしのTVタックル (TV出演)	TV朝日	2018年2月11日
94	小川さやか	借金をしよう。返さずに生きよう	『コトノネ』, 25号	2018年2月21日
95	矢野健一	縄文土器 10選 私の実測した縄文土器 10選	『ジョーモネスクジャパン』, 14号	2018年1月
96	矢野健一	葛籠尾崎湖底遺跡の調査	『びわ湖トラストたより』, 春号	2018年3月
97	川村貞夫	夢を追って	教育情報誌『ドリームナビ』	2017年
98	川村貞夫	研究最前線 第98回琵琶湖を守るロボット	教育情報誌『開塾タイムス』	2017年
99	小川さやか	小川さやかに学ぶ 借りのない「借り暮らし」第1回タンザニアでの自然なシェア	『OURS KARIGURASHI MAGAZINE』UR都市機構日本支社	2018年
100	小川さやか	小川さやかに学ぶ 借りのない「借り暮らし」第2回無条件の条件を考えてみる	『OURS KARIGURASHI MAGAZINE』UR都市機構日本支社	2018年
101	小川さやか	小川さやかに学ぶ 借りのない「借り暮らし」第3回ネットワーク的な社会のために	『OURS KARIGURASHI MAGAZINE』UR都市機構日本支社	2018年

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	中川毅	講談社ブルーバックス	講談社科学出版賞	人類と気候の10万年史 過去に何が起きたのか、これから何が起ころのか	2017年7月
2	矢野健一	尖石縄文文化賞選考委員会	第18回尖石縄文文化賞	西日本の縄文文化研究および関西縄文文化研究会の活動	2017年10月

7. 科学研究費助成事業

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	那須浩郎	縄文時代の植物大型化メカニズム解明	基盤研究(B)	2017年4月	2020年3月	代表
2	山田和芳	年稿堆積物DNAによる景観復元の探求	挑戦的研究(萌芽)	2017年4月	2018年3月	代表
3	中村豊	縄文/弥生移行期における集落・地域社会の変化に関する研究	基盤研究(C)	2017年4月	2020年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)

--

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	中村豊	瀬戸内地方における縄文時代のサメ類利用の総合的研究	福武財団・瀬戸内海文化研究活動支援助成	2017年4月	2018年3月	分担
2	中村豊	UAV/GIS 空撮技術による遺構・遺物の3次元デジタルアーカイブ構築と地域での活用に関する研究	平成 29 年度徳島大学総合科学部創生研究プロジェクト経費 地域創生総合科学推進	2017年4月	2018年3月	分担

9. 知的財産権

N/A